

## 第40回公演「久美・美容室物語」

### 団長の独り言

「久美・美容室物語」その2

劇場入りが午前9時。

それから約3時間が経過したところで、舞台面では大道具がほぼ立ち上がる。

「舞台セット案」って事で、最初に私が描いた子供のお絵描きのような絵を三井さんが具体化して下さり、予算内で、こんな立派で素敵な舞台セットが完成させて下さるなんて！いやはや、毎度の事ながら感動モノです。

その舞台セットに、劇団ふぁんハウス初登場！唐沢さんの照明が入り始める。

しばし客席でその様子を眺めていると、2種類の窓枠の影が舞台上に現れた！

何処のシーンで登場するのは、私も聞かされていなくて、ワクワクします。

おっと！席に座っている場合ではない！私も何かと忙しい身！って言いたいところ

だけど、舞台面は舞台監督の高橋さんが仕切っているし、ロビー受付周りは、恵ちゃんが仕切っているし、楽屋では千秋ちゃんが仕切っているようなので、私は、ビックカメラへ向かう事にした。

音声ガイドの送信機に使うコードをね、ちよいと購入してくるんです。

劇場の外に出るとボカボカ陽気で、なんと天気の良い事よ。劇場内は「夢舞台」の製造工場って感じで色々な人々が本番

に向けての準備をしているけれど、一歩外へ出れば現実の世界：。

それにしても赤坂のど真ん中にビックカメラが出来てくれたのは色々助かる。

劇団ふぁんハウスが初めて赤坂で公演した20数年前、あそこになかったからね、ビックカメラ。

私、こう見えて(どう見えて?)、家電量

販店大好き男でして、用事がなくても平気で2時間は家電量販店をフラフラ

出来る男なんです。だからこうして、ビックカメラに足を踏み入れると、あれも見たい、これも見たい！となる。

でもいかに！いかに！今日は大変忙しい1日なので目的のコード1本を購入し、

後ろ髪を引かれる思いでビックカメラを後にして劇場に向かっていると、千秋ちゃんから電話が入る。

「12時までしか搬入車の留め置きは出来ないの、団長の車も移動して下さい」との事、急いで戻り車を移動させる。

劇場から歩いて10分ほどのところにコインパーキングはあるけれど、我々は21時30分まで劇場にいるので、そうなる

と、赤坂は駐車場代がとんでもない料金となる。

そこで、勝手知ったる新宿まで移動して、料金の上限がある安心、安全な時間貸

し駐車場まで車を持っていき、大急ぎで、地下鉄で劇場に向かおうとすると、舞

台監督の高橋さんから電話。

「団長、今どこにいます？舞台にある道具の配置確認をお願いしたいのですが？」

道具類の配置確認というのは、場面ごとに出てくるソファーや椅子、テーブル、あとは、役者の立ち位置等を確定する作業の事。

ほら、当然ながら劇場と稽古場では、広さも環境も違うので、客席からの見え

方、芝居の邪魔にならない効率のいい道具類の配置等、演出的立場から決めて

行かなきゃいけない。どこでも適当に道具類を並べたらいい

ものではないのだ。で、その道具類の場所が確定すれば、照

明さんが明かりの調整を行う。だから新宿になんている場合じゃない！

高橋さんは、「大丈夫ですよ、他の作業をやりますので無理せず気を付けて戻

ってきてください」となんとも優しい事を言っ

てはくれるが、大慌てで劇場に戻れば、舞台面はすっかり完成していた。

「お待たせしました」と関係者各位に謝りまして、早速、客席から道具類の位置を見て、場面ごとに配置を行うと、

その道具類に合わせたところに次から次へと照明の調整が始まり、やがて舞台上

からは人が消え、音も何もない世界で、色とりどりの光が動きだす。

場面ごとに、照明の最終的な調整を行う「シユート」という作業だ。

「シユート」はとてもデリケートな作業なので、2時間くらいはかかるかなあ？

舞台上が突然暗くなったり、明るくな

たりするし、照明さんがイメージを掴む大事な作業なので、他の作業はほぼ休止

の間、様々なポジションでスタッフとして働くメンバー達も、思い思いの時間を

過ごす。そのシユートが終わると、先程まで静まり返った中、照明のみチカチカしていた

劇場が明るくなり、今度はスピーカーからとてもムードリーな音楽が流れ始める。

今度は音響の野中さんによるサウンドチェックの時間だ。

各スピーカーから出る音のバランスを聴きながら調整し、アマテイアズのピアノ演

奏の音やマイクを使ってソロで歌うみっちゃんの音等、ありとあらゆる「音関係」の

チェックと調整の作業が入り、休憩を挟んでいよいよ場当たりの開始。

場当たりとは、稽古場では絶対に出来ない照明、音響、舞台転換等を絡めて、

総合的に合わせる作業の事。この作業では、舞台スタッフはもちろんの事、役者

も早替えのタイミングを計らなきゃいけないし、暗転の時の動きもちゃんと確認

しなきゃいけない。このように、稽古場では絶対に確認出来

なかった事を唯一確認出来るのが「場当たり」なので、誰も彼もがいい感じで

緊張している。私は客席の真ん中にテーブルを置いて、

そこにテーブル灯、台本、ダメ出しノート、場内に響き渡るマイクを並べ、舞

台監督が指揮する「場当たり」の開始を、心を落ち着けて待つのでした。